

令和 7 年度 栗東市議会 広聴会

「栗東の観光資源を活かしたまちづくり～みんなで守り、育てる栗東の魅力～」

報告

1. 目的

本事業は、「市民によく見え、魅力ある議会」を目指した広聴活動の一環として実施。現場で活動するボランティア団体の皆さまから直接意見を伺い、本市の魅力を改めて整理・共有するとともに、現状の課題を明らかにし、今後の議会活動や政策提案の一助とすることを目的とした。

2. 実施概要

日時:令和 8 年 1 月 23 日(金)13 時 30 分～15 時 20 分
(議員集合 12 時・解散 16 時)

対象:市内で活動するボランティア団体

- ・自然観察の森ボランティア NVR 友の会
- ・やまのこサポーター
- ・栗東市ボランティア観光ガイド協会
- ・国際交流協会

参加人数:38名(参加者21名、議員17名)

進行方法:はじめに広聴会の趣旨と流れについて説明。参加者と議員を 7 グループ(A～G)に分け、自己紹介の後、各グループで同一の 4 つのテーマについて時間を区切って意見交換し、付箋を用いて意見を可視化した。カフェコーナーを設け、休憩時間にはお茶とクッキーを提供し、最後に全体共有を行った。

- テーマ
- ①栗東の今ある魅力は？
 - ②現場にはどのような課題がある？
 - ③魅力をより活かすため、課題解決のために何ができる？
 - ④栗東の観光資源を活かすためには？

3. 意見整理の考え方

本報告では、同一テーマに対する議論結果を、グループごとの特徴や着眼点の違いとして整理している。各グループはテーマ分担ではなく、同一テーマに取り組んでいる点を補足する。(意見の原文については別紙参照)

4. グループ別意見の概要

【A グループ】全体俯瞰・構造整理

金勝山、自然、旧東海道、神社仏閣、文化財など多様な観光資源が存在
課題として、公共交通・アクセス、飲食や滞在機能、PR 不足を指摘
トイレ・駐車場等の基礎インフラ整備や、観光ボランティアの必要性を共有

【B グループ】自然×体験×発信

自然環境(山・森・水)を活かした体験型観光が有効
森遊館や温泉などによる「癒し」「滞在」の場づくり
四季を通じた楽しみ方、SNS 発信の重要性を指摘

【C グループ】強みと弱みの明確化

自然が豊かで静か、住みやすい点が強み
知名度の低さ、車移動前提で回遊性が低い点が課題
JR 栗東駅の活用や歩行導線の整備を提案

【D グループ】魅力を生かす仕組みづくり

公園、施設、トイレ、駐車場などの整備不足を指摘
公園とイベントの組み合わせによるにぎわい創出
歴史・文化を物語として伝える工夫、行政と民間の役割分担の必要性

【E グループ】情報発信・連携

「魅力が伝わっていない」ことが最大の課題
SNS(動画系を含む)の活用
観光協会、地域団体、事業者間の連携強化
工場見学等、新たな観光資源の掘り起こし

【F グループ】活かし方の具体化

引退馬と自然を組み合わせた栗東らしい観光の可能性
観光ボランティアや担い手育成の重要性
未活用資源の活用と、継続的運営の課題を指摘

【G グループ】制度・支援の視点

PR、DX の活用による情報発信強化
子ども・親子向け施策の必要性
補助金、資金、人材支援、外部人材との連携





5. 全体を通して共有された主な課題

観光資源は存在するが、十分に認知・発信されていない
公共交通、導線、回遊性、滞在機能が弱い
人が関わる仕組み(体験、ボランティア、交流)の重要性
ハード整備と併せ、ストーリー性と発信が不可欠

6. まとめ

本広聴会を通じて、栗東市には自然・歴史文化・地域資源など多様な観光資源が存在する一方で、参加者からは「資源が十分に認知・発信されていない」「アクセスや導線が弱く回遊しづらい」「滞在や消費につながりにくい」「担い手や継続運営の仕組みが弱い」といった現場感覚に基づく課題が共有された。あわせて、体験型の要素やストーリー性、情報発信の工夫、関係団体・事業者間の連携など、資源を“点”ではなく“面”として活かすための視点が多く示された。

これらの意見は、直ちに結論や施策を決めるためのものではなく、議会として現場の実態や市民の受け止めを踏まえながら、今後の議会活動に活かすための重要な材料である。今後は、広聴会で得られた論点を踏まえ、必要に応じて当局への確認や現地の状況把握を行い、関係団体・関係者との対話を継続しながら、栗東の観光資源を活かしたまちづくりの方向性や課題の整理に役立てていく。

以上